小規模多機能ホームゆかい西野

運営推進会議　報告書

事 業 所 名：小規模多機能ホームゆかい西野

住　　　　所：札幌市西区西野6条9丁目1番12号

サービス種類：小規模多機能型居宅介護

日 　　　　 時： 令和7年3月26日

場 　　　　 所： 小規模多機能ホームゆかい西野

委 　　　　員：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 利用者代表 | ４人 | 知見を有する者 | 2人 |
| 利用者家族 | 0人 | 包括支援センター職員 | ２人 |
| 地域住民の代表 | 1人 |  |  |
| 事業所職員  （職名：管理者、介護従業員、看護師等） | | | 5人 |

１.報告事項：

1. **利用者の状況**

登録者数及び男女比

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 1月 | 2月 |
| 登録数 | 16名 | 16名 |
| 男性：女性 | 5：13 | 6：10 |

地域

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 1月 | 2月 |
| 西野 | 5名 | 5名 |
| 平和 | 3名 | 2名 |
| 西町 | 2名 | 2名 |
| 八軒 | 1名 | 1名 |
| 二十四軒 | 2名 | 2名 |
| 手稲区西宮の沢 | 2名 | 2名 |
| 手稲新発寒 |  | 1名 |
| 宮の森 | 1名 | 1名 |

要介護度

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 要支援１ | 要支援２ | 要介護１ | 要介護２ | 要介護３ | 要介護４ | 要介護５ | 変更申請中 |
| 1月 | 0 | 1 | 7 | 5 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 2月 | 0 | 2 | 5 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 |

平均介護度：1.75

**（2）環境作り**

|  |  |
| --- | --- |
| 1月3日～5日 | 新年\_お正月 |
| 1月8日 | 西野神社\_初詣 |
| 1月11日 | 利用者さんの誕生日 |
| 1月30日 | 節分用の起き上がりこぼし鬼づくり |
| 2月3日 | 節分 |
| 2月15日 | バレンタインチョコづくり |
| 2月23日 | お雛様を受けとり |
| 2月28日 | ビスケットの日 |

**（3）利用者の生活、地域とのつながりをもつ取組**

・利用者さんの床屋

・ゆかいガチャの中身づくり

・ゆかい前\_雪の飾り

・ファミリーマートへ

・びっくりドンキーでスイーツ

・びっくりドンキーでご家族も一緒にランチ

・町内会ボーリング大会

**（4）事業所の取り組み**

　・ホットケーキ作り

　・子どもと綿あめ

　・クリスピーピザチャレンジ

　・学生見学

　・お手玉遊び

　・おこちゃまデー

　・サンドイッチづくり

　・雪だるまづくり

　・ダーツ対決

**（5）質を向上するための取組**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1月10日 | 虐待と身体拘束 |  |
| 2月14日 | 接遇マナー |  |

**（6）事業所の地域参加**

|  |  |
| --- | --- |
| 1月5日 | 西野連合町内会\_新年交礼会 |
| 1月11日 | 西野第一町内会\_新年交礼会 |
| 2月8日 | 西野第一町内会役員会 |
| 2月23日 | ボーリング大会運営・参加 |

**（7）ヒヤリハット・インシデント報告**

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
|  |  |

２. 外部評価について

　共有を行う

３.意見・アドバイス

外部評価を踏まえた意見

地域との関わりについて

* 西野の予防センターと町内会は非常に親密な関係にある。
* 予防教室などに参加する際は、町内会への挨拶が推奨される。

地域との災害対策の共同について

* 地域の事業所から、災害時に近隣の特養と連携し、利用者を受け入れる体制が整っていると聞いている。
* ゆかい西野でも、利用者を自宅に返せない場合を想定する必要がある。
* 数日間施設で見守らなければならない場合の対応が課題。
* 施設には泊まりの環境があるが、入所施設ではないため、対応の検討が必要となる。
* 近隣の大型施設と連携すればできることも増える。
* 有珠山の噴火時に災害対策を経験した参加者から、灰や地面の状況により、利用者を自宅に返せない物理的な状況も考慮する必要があるとの話題提供があった。
* 上記災害時には、消防士や看護師が同行してくれ、利用者の送迎を行った経験も紹介された。
* 札幌では、物理的に送迎できない可能性や専門スタッフの動向ができない可能性について予測される。

D-MATとJ-MATの役割

* 参加者の中にはD-MATの研修を受けた方がおり、避難所での支援が重要な前提となると意見をいただく。
* 事業所の規模によって備えられる体制には限界があり、災害時の拠点となる場所と各事業所とのバランスが大切である。
* 災害時には、D-MATが対応し、その後J-MATが引き継ぐ流れとなる。

協議や事前の話し合いの重要性

* 地域との避難訓練を行うだけでなく、事前に協議や話し合いをしておくことが重要。

次回開催

次回開催は、来年度の5月を開催目途としたいと思っております。